

追悼文

山辺良樹君を偲ぶ

丸山暢久（4組）

7月11日の朝、成澤文和君（4組）から電話があり山辺良樹君（4組）が亡くなったとの事。今年も年賀状も来ていたし、急な訃報に驚いた。何年か前、上田で仲間と飲食した時に、彼が肺気腫で酸素ボンベを常に引いて外出していたことは分かっていた。その時は比較的元気で「いや～大変だけど大丈夫だよ」と言っていたので、我々も少しばかり安心して、皆と飲み食いしながら過ごした。

私と山辺君とは4組の席で私の後ろが彼で、話好きの彼とはよくお喋りをした。入学して間もない頃、山辺君が「俺は長野高専も合格したんだ」と言って少し自慢げな表情をしていたのを思い出す。

優秀な生徒の中には出来たばかりの長野高専受験を度胸試してみたいな感じで流行ったようで、山辺君もその一人だったのだろう。

彼はバドミントン班に入り浅倉英樹君、中村幸男君、永井寛君（いずれも4組）達とよく練習をしていて、私も時々仲間に加えてもらった。

年月を経て私も東京に落ち着いた40代後半の頃、浅倉君たちに誘われて同期会に加わった。その後、山辺君も顔を出すようになり分かったことがある。私は大阪勤務の時に西宮に住んでいたが、その頃彼はアサヒビールの西宮工場に勤務していて、西宮の社宅に居た時にビール工場からの匂いが結構強く感じた話をした。その後、彼は浅草吾妻橋の本社に戻り調達部長に就任した。その頃から関東の同期会はアサヒビールの関連レストランを手配して貰い大変助かった。値段も手ごろにして貰い、調達部長の面目躍如といった処だった。

又、彼が本社勤務になったので瀧沢政視君（4組）等も交えて時々ゴルフをするようになったが、山辺君のプレイ前の朝のルーティンは食堂で日本酒を2合飲むことだった。

定年も近づく頃、山辺君は上田の実家に戻る事を真剣に検討していたが、東京育ちの奥様にどの様に伝えて説得するか腐心していた。最終的に奥様が了解したのでしょう。私も一度山辺君を含む仲間とゴルフの後、彼が所有の隣接ビルの3階で麻雀をしてから帰京した事がある。彼の父上も麻雀大好きだったようだが、その父上の癌が進行し佐久総合病院で手術をしたとの事。私が、「僕の義弟(家内の弟)が外科部長をしているよ」と言ったら「何て名前？」と聞くので「大井って言うんだ」と答えると、「大井先生に手術して貰ったんだよ！」とお互いにビックリ。それにしても西宮で重なって、東京でも遊びに興じ、病気でもこの関りとは縁は異なるものとはこの事なのか。義弟の施術で父上がかなり長命にて過ごされたのには私も一安心。

山辺君の葬儀は家族葬で行われるらしいので参列は止めて、手紙とお香典を当日速達で送った処、翌日昼頃に奥様から思いもよらぬ電話が来て色々話された。

奥様は上田でお一人で過ごすことになるが、山辺君には天国から、無理を聞いてくれた奥様の御無事を是非見守って貰いたいと願うばかり。山辺君のご冥福を願って追悼文とします。

合掌

（令和6年7月15日記）